OLYMPUS®

CAMEDIA

ELECTRONIC FLASH

FL-40

JAPANESE

取扱説明書

■ このたびは、オリンパス フラッシュFL-40をお買い上げいただき、ありがとうございます。

■ ご使用前にこの説明書をお読みください。

ENGLISH

Instructions

■ Before using your flash, read this maual carefully to ensure correct use.

FRANÇAIS

Instructions

■ Avant d’utiliser votre flash, veuillez lire attentivement ce manuel, de manière à obtenir les meilleurs résultats possibles.

DEUTSCH

Bedienungsanleitung

■ Machen Sie sich bitte vor Gebrauch des Blitzgeräts mit dem Inhalt dieser Bedienungsanleitung vertraut, damit stets eine sachgemäße Handhabung garantiert ist.

ESPANÕL

Instrucciones

■ Antes de emplear el flash, lea este manual detalladamente para asegurar el uso correcto.

CHINESE

使用説明書

■在使用本閃光燈之前，首先請仔細閱讀本手冊以掌握正確之用法。

J 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

1. フラッシュや AF イルミネータを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。
2. 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
3. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
   - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   - 目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。
   - フラッシュの動作部でけがをする。
4. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   - このフラッシュで指定されていない電池を使わないでください。
   - 電池を火の中に投入、加熱、ショート、分解をしないでください。
   - 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池、異なるメーカーの電池を混ぜて使わないでください。
   - 充電できないアルカリ電池を充電しないでください。
   - 取り外した電池は幼児、子供の手の届かないところに保管してください。誤って飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   - 電池の＋－の極性を逆に入れないでください。
5. 湿気やほこりの多い場所にフラッシュを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどの恐れがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 本製品には高電圧回路が組み込まれています。決して分解、改造はしないでください。感電や怪我の恐れがあります。

⚠ 注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因になります。
2. 本製品はオリンパス製デジタルカメラ専用のフラッシュです。他社のカメラに接続すると、カメラおよびフラッシュが動作しなくなるか、最悪の場合、カメラおよびフラッシュが破壊される恐れがあります。
3. 長期間使用しない時は電池を取り外しておいてください。電池の発熱や液漏れがおこり、火災やけが、周囲が汚れる原因になります。

4. 電池の液漏れが起こったら使用しないでください。 放っておくと、火災や感電の原因となります。 販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。
5. 濡れた手で操作しないでください。 感電の危険があります。
6. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。 部品が劣化したり、火災の原因となるところがあります。
7. 電池を使って長時間連続使用したあとは、 電池をすぐに取り出さないでください。 やけどの原因となることがあります。

お取り扱いについて

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。 以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。
- 直射日光下や夏の海岸など
- 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
- 砂、ほこり、ちりの多い場所
- 火気のある場所
- 冷暖房器、加湿器のそば
- 水に濡れやすい場所
- 振動のある場所
- 自動車の中

●フラッシュを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。 使用前には動作点検をされることをおすすめします。

●本体の電気接点部には触れないでください。 故障の原因になることがあります。

●**フラッシュを短時間に何度も発光させると、発光部の温度があがることがありますので、直接手を触れないでください。**

●発光部の加熱と劣化を防止するため、フル発光での連続発光は 20 回までで中断し、10 分以上間をあけて発光部を冷却させてください。

電池について

●電池は、単 3 アルカリ電池、1000mAh 以上の単 3 ニッケル水素電池またはニッカド電池 4 本を使用します。

●単 3 マンガン電池、単 3 リチウム電池は使用できません。

●ニッケル水素電池は繰り返しご使用いただけます。 ただし、化学反応によりエネルギーを供給するため特性は徐々に劣化します。 B-01/B-02 を FL-40 でお使いの場合、充電回数の目安は約 300 回です。（使用条件により変動します。）

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、必ず指定された充電器で 4 本すべての電池を同時にかつ完全に充電してからお使いください。なお、購入したて、あるいは 1ヵ月以上未使用のニッケル水素電池をご使用の場合、電池特性により完全に充電できないことがあります。 この時は一時的に電池寿命が短くなりますが、充放電を繰り返すうちに回復します。

●誤った使い方をすると液漏れ・発熱・破損の原因になります。 また、汗や油汚れは接触不良の原因となります。汚れは乾いた布でしっかりと拭き取り、挿入の際は、＋－の向きに注意して入れてください。

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。 寒冷地で使用するときは、フラッシュを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器などの説明書をよく読んで、正しくお使いください。

●電池を捨てるときは、地域の条件に従って処分してください。

本製品を使用できるカメラについて

●オリンパス製デジタルカメラの種類によっては、本製品で使用できる機能に制限があります。詳しくは当社のホームページ（http://www.olympus.co.jp）をご覧ください。

本取扱説明書をお読みになる前に

○本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
○本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
○本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
○本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
○本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
○本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

商標について

本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

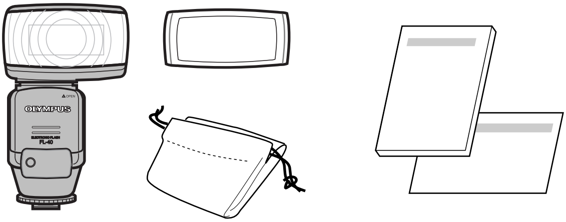
J 目次

安全にお使いいただくために 2
箱の中を確認しましょう 29
各部の名称 30
コントロールパネルの名称 31
フラッシュに電池を入れる 31
フラッシュの電源を入れる 32
フラッシュの電源を切る 32
カメラに取り付ける 33
カメラから取り外す 34
通信可能なデジタルカメラで撮影する 34
制御モードについて 34
P/A/S(カメラの撮影モード)で撮影する 35
カメラの内蔵フラッシュと併用する 36
バウンズ撮影をする 36
スローシンクロ撮影をする 38
後幕シンクロ撮影をする 39
マニュアル発光で撮影をする 40
露出補正について 40
通信不可能なデジタルカメラで撮影する 41
AUTO モードで撮影する 41
マニュアルモードで撮影する 42
照射角の手動切り換え 42
ワイドパネルを使う 43
マニュアルモード時の撮影距離(m)と絞り値 44
使用可能な CCD 感度と絞り値の組み合わせ 44
Q & A 45
主な仕様 46

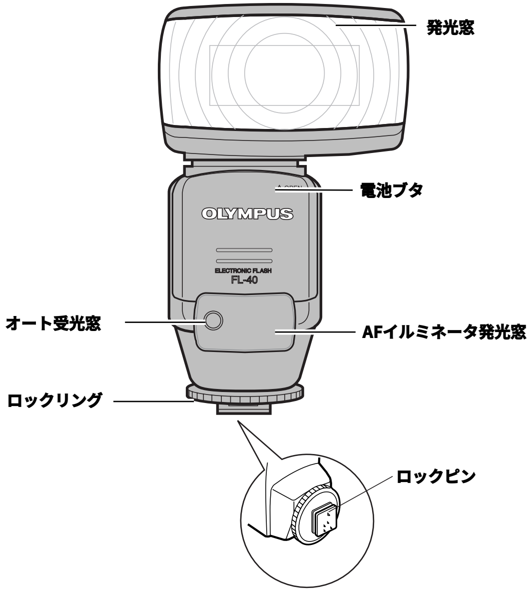
J 箱の中を確認しましょう

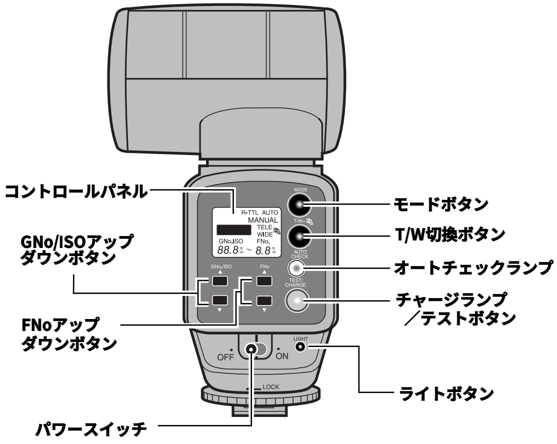
箱の中の付属品はすべて揃っていますか。
万一、付属品の内容が不足していたり破損している場合はお買上げ販売店までご連絡ください。

- フラッシュ本体
- ワイドパネルアダプタ
- フラッシュケース
- 取扱説明書(本書)
- 保証書
- 愛用者カード



J 各部の名称

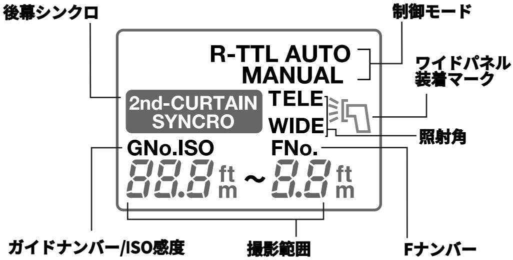




ライトボタン：
コントロールパネルのバックライトが点灯し、暗い所でも表示が見えます。

チャージランプ／テストボタン：
撮影時以外にフラッシュを発光させます。 TTL AUTO ／ R-TTL AUTO の場合はフル発光します。 AUTO/MANUAL の場合、必要光量を発光してオートチェックランプが点滅します。

J コントロールパネルの名称



メモ

・撮影範囲の表示単位(m ←→ ft)を切り替えるには、ライトボタンを押しながらパワースイッチを ON にします。

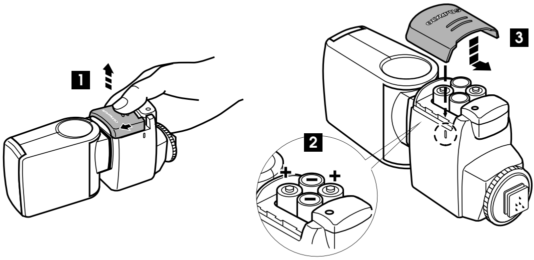
J フラッシュに電池を入れる

フラッシュに電池を入れ、カメラに取り付けます。
電池は次のいずれかの種類のものを、4 本ご使用ください。
・1.5V 単三アルカリ電池（LR6 タイプ）
・単三ニッケル水素電池（HR-AA タイプ）
・単三ニッカド電池（KR-AA タイプ）
種類の違う電池、あるいは新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
カメラを長期間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。

1 電池ブタを外します。

2 電池の向きを正しく合わせていれます。

3 電池ブタを取付指標に合わせて置き、スライドさせて閉めます。



J フラッシュの電源を入れる

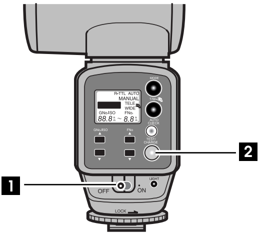
電池を入れたら、フラッシュの電源を入れて、電池の充電をチェックしましょう。

1 フラッシュのパワースイッチを ON にして、電源を入れます。

2 チャージランプが点灯していることを確認します。
チャージランプが点灯していない場合は、充電が完了していません。

メモ

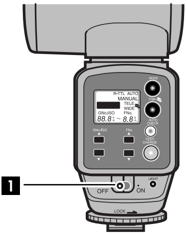
・充電が遅い時は電池が消耗している可能性があります。 電池を交換してください。



J フラッシュの電源を切る

電池の充電が問題なくできるようでしたら、フラッシュの電源をいったん切りましょう。また、カメラ本体にフラッシュを取り付けるときや撮影中に発光させたくないとき、フラッシュを使い終わった後も電源を切っておきましょう。

1 フラッシュのパワースイッチを OFF にして、電源を切ります。



J カメラに取り付ける

カメラにフラッシュを取り付けましょう。
カメラに取り付けるときは、カメラ本体とフラッシュの電源が切れていることを確認してください。 電源が入ったまま取り付けると、カメラやフラッシュを壊す恐れがあります。

1 図のように、フラッシュを基本の形にセットします。

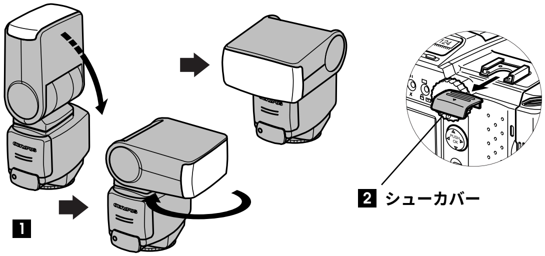
2 カメラのシューカバーを外します。
シューカバーはフラッシュケースのポケットに入れて保管してください。

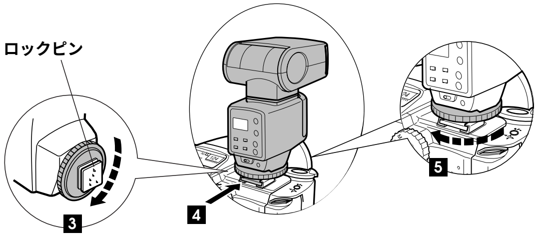
3 ロックピンが出ていないことを確認します。
ロックピンが出ている場合は、ロックリングを「← LOCK」と反対の方向に止まるところまで回して、ロックピンを引っ込めてください。

4 フラッシュをホットシューの奥にカチッと突き当たるまで、しっかりと差し込みます。

5 ロックリングを「← LOCK」方向に止まるまで回します。

注意
- ロックリングに必要以上の力をかけないようにしてください。
- フラッシュ本体の電気接点部に、指や金具などで触れないでください。(故障の原因となります。)
- ロックピンが出たままカメラに装着すると故障の原因になります。





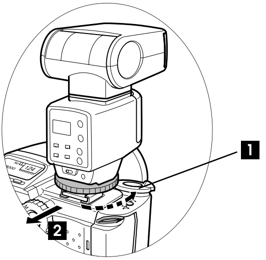
J カメラから取り外す

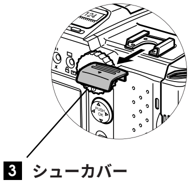
カメラからフラッシュを取り外しましょう。
カメラからフラッシュを取り外すときは、カメラ本体とフラッシュの電源が切れていることを確認してください。
電源が入ったまま取り外すと、カメラやフラッシュを壊すおそれがあります。

1 ロックリングを「← LOCK」と反対方向に止まるところまで回します。

2 フラッシュを引き抜きます。

3 シューカバーをカメラに取り付けます。





J 通信可能なデジタルカメラで撮影する

制御モードについて

本製品と通信可能なカメラに接続すると、フラッシュがカメラ内の情報を受け取り、下記の制御モードが選択できます。
カメラ側のモード選択、またはフラッシュのモードボタンの操作で、制御モードを選択してください。

メモ

・AUTO モードまたは MANUAL モードは、通信不可能なデジタルカメラでも使うことができます。

• TTL AUTO
カメラ本体の情報をフラッシュが受け取り、自動的に調光してフラッシュの発光量を調節してプリ発光方式で発光します。

• R-TTL AUTO
カメラ本体の情報をフラッシュが受け取り、自動的に調光してフラッシュの発光量を調節します。 プリ発光方式ではありません。 R-TTL AUTO に対応していないカメラでは使用できません。

• AUTO
フラッシュが自動的に発光量を調節して発光します。 AUTO に対応していないカメラではこのモードは使用できません。

• MANUAL
ガイドナンバーをユーザーが指定して、発光します。

メモ

・通信可能なカメラに接続すると、フラッシュのモード選択がカメラ側からしか受け付けない機種があります。 カメラ側からフラッシュのモードを選択してください。

P／A／S(カメラの撮影モード)で撮影する

カメラの撮影モードが、P（プログラム）モード／A（絞り優先）モード／S（シャッタースピード優先）モードのときの撮影方法について説明します。
ここでは、カメラの内蔵フラッシュを使わずに撮影します。

1 **カメラの内蔵フラッシュが、収納されていること(OFF)を確認します。**

2 **フラッシュのパワースイッチをONにして、電源を入れます。**

3 **カメラの撮影モードをP（プログラム）／A（絞り優先）／S（シャッタースピード優先）にします。**

4 **フラッシュのコントロールパネルに、フラッシュモード「TTL AUTO」、「R-TTL AUTO」または「AUTO」、ズーム「TELE」または「WIDE」、撮影距離（オート有効距離）が表示されていることを確認します。**

5 **チャージランプが点灯していることを確認します。**
チャージランプが点灯していない場合は、充電が完了していません。

メモ
- 電源が入った状態で何も操作しないと、パワーセーブ機能が働き、コントロールパネルの表示はすべて消えてしまいます。シャッターレリーズボタンを軽く押すと再度、コントロールパネルが表示されます。

6 **構図を決め、シャッターレリーズボタンを押します。**
カメラのズーミング操作を使用した場合でも、フラッシュの照射角がWIDEまたはTELEに自動的に切り変わります。

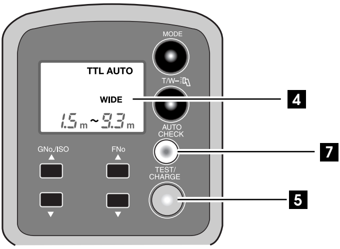
メモ
- 暗い場所では、AFイルミネーターから自動的に赤色光が照射されます。
- 被写体の状況によりAFイルミネーターの照射効果は異なります。合焦できない場合は被写体に近づくか、コントラストの高い所で合焦してください。

7 **発光の確認をします。**
オートチェックランプの点滅（シャッターレリーズボタンを押した後、約5秒間）により適正発光が確認できます。

■最適撮影距離（CCD感度がISO100の場合）

カメラの絞り値	2.8	4	5.6	8
ワイドパネル使用時	1.5～6.4m	1.5～4.5m	1.5～3.2m	1.5～2.3m
ワイド照射時	1.5～9.3m	1.5～6.5m	1.5～4.6m	1.5～3.3m
テレ照射時	1.5～14m	1.5～10m	1.5～7.1m	1.5～5.0m

注意
- 制御モードがTTL-AUTOのときは、プリ発光方式を採用しているため、シャッターレリーズボタンを押すと3回発光します。実際の撮影は3回目の発光時におこなわれます。



カメラの内蔵フラッシュと併用する

カメラの内蔵フラッシュと併用して撮影することができます。
外部フラッシュの光をバウンズさせ、内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得るなど、高度なフラッシュ撮影をおこなうことができます。

1 **フラッシュのパワースイッチを ON にして、電源を入れます。**

2 **カメラの内蔵フラッシュを ON にします。**

3 **カメラのフラッシュモードを選択します。**

4 **チャージランプが点灯していることを確認します。**
チャージランプが点灯していない場合は、充電が完了していません。

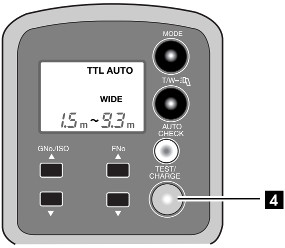
5 **シャッターレリーズボタンを押します。**

メモ

・オートチェックランプの点滅（シャッターレリーズボタンを押した後、約 5 秒間）により、適正発光が確認できます。

注意

・内蔵フラッシュ、外部フラッシュの両方が充電完了しないと撮影できません。
・外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用した場合、両方のフラッシュで適正光量になります。ただし、遠方を撮影する場合で内蔵フラッシュが届かない場合は、外部フラッシュのみで適正光量にします。

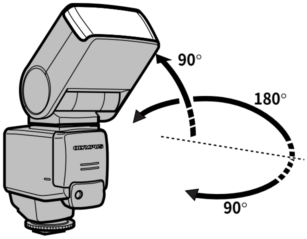


バウンズ撮影をする

バウンズ撮影とは、フラッシュの光を壁や天井に反射させて撮影する方法です。
通常のストレートフラッシュ撮影では被写体の背景に強い影が出やすくなります。 フラッシュの光を壁や天井に反射（バウンズ）させることにより、被写体全体に光の回ったソフトな写真を撮影することができます。 また、内蔵フラッシュと併用して瞳にキャッチライトを入れた撮影をすることもできます。

1 **発光部をバウンズさせたい向きに動かします。**

上側 0 ～ 90 °
左側 0 ～ 90 °
右側 0 ～ 180 °



2 **チャージランプが点灯していることを確認します。**
チャージランプが点灯していない場合は、充電が完了していません。

3 **シャッターレリーズボタンを押します。**

メモ

- 一般的には、バウンズの角度は60 ぐらいをおすすめします。
- オートチェックランプの点滅（シャッターボタンを押した後、約5 秒間）により、適正発光が確認できます。
- バウンズ撮影時にはカメラの撮影モードはPまたはAにしてください。
- 適正発光表示が出ない時は被写体に近づくか、カメラの撮影モードをAにして絞りを開けてください。
- バウンズさせるとストレートフラッシュに比べて、撮影可能距離が短くなります。



ストレート撮影



バウンス撮影



内蔵フラッシュ＋バウンス撮影(キャッチライト効果)

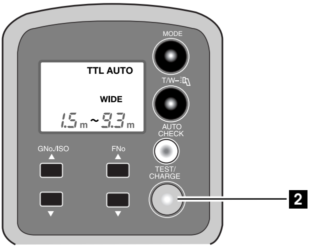
スローシンクロ撮影をする

夜景などをバックにして人物をフラッシュ撮影すると、背景は露出不足になります。フラッシュスローシンクロ撮影を使うことにより、暗い背景も明るく写すことができます。

1 **カメラの撮影モードを「S(シャッタースピード優先)」または「M(マニュアル)」にして、シャッタースピードをスローシャッターに設定します。**

2 **チャージランプが点灯していることを確認します。**
チャージランプが点灯していない場合は、充電が完了していません。

3 **シャッターレリーズボタンを押します。**





通常のシンクロ撮影



スローシンクロ撮影

後幕シンクロ撮影をする

後幕シンクロとはスローシャッターで周囲の状況を捉え、 最後にフラッシュが発光する撮影方法です。 例えば、走行中の自動車を撮影すると、テールランプの光が尾を引いて撮影されます。

1 カメラを後幕シンクロモードにします。
後幕シンクロモードについては、カメラのマニュアルを参照してください。

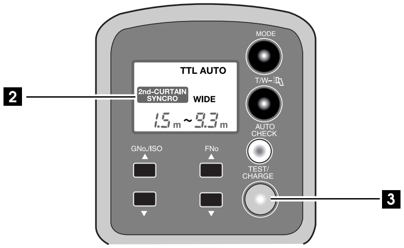
2 フラッシュのコントロールパネルに「2nd - CURTAIN SYNCHRO」が表示されていることを確認します。

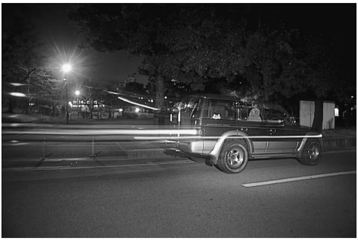
3 チャージランプが点灯していることを確認します。
チャージランプが点灯していない場合は、充電が完了していません。

4 シャッターレリーズボタンを押します。

メモ

・シャッタースピードが遅くなるので、カメラブレを防ぐため三脚をご使用になることをおすすめします。





後幕シンクロ撮影

マニュアル発光で撮影をする

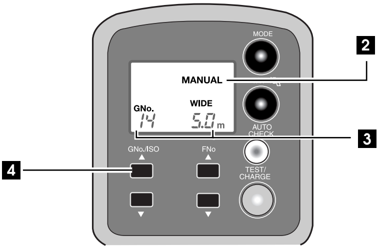
シャッタースピードと絞り値を任意でセットしてフラッシュ撮影します。

1 カメラの撮影モードを「M(マニュアル)」にします。

2 フラッシュのモードボタンを押して、フラッシュのコントロールパネルの表示を「MANUAL」にします。

3 フラッシュのコントロールパネルに、発光ガイドナンバーと現在のカメラの設定値（絞り、CCD の感度）での最適露出の撮影距離が表示されていることを確認します。

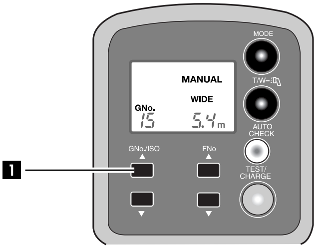
4 実際の撮影距離に応じて、GNo/ISO アップダウンボタンを押して、撮影距離を指定します。



露出補正について

制御モードが MANUAL の場合、GNo/ISO アップダウンボタンで露出補正を設定することができます。 ボタンを 1 回押すごとに、1/4EV ずつ補正が行われます。
フラッシュのモードが TTL AUTO ／ R-TTL AUTO ／ AUTO の場合、カメラ本体でフラッシュの露出補正を設定するのと連動して、フラッシュ本体も露出補正が自動的に設定されます。

1 フラッシュの GNo/ISO アップダウンボタンを押します。
1 回押すごとに、1/4EV 補正が行われます。



J 通信不可能なデジタルカメラで撮影する

通信不可能なデジタルカメラでは、AUTO モード／ MANUAL モードを使って撮影することができます。

AUTO モードで撮影する

デジタルカメラの CCD 感度(ISO 感度)、レンズのFナンバーを入力することにより、通信が不可能なカメラでも自動的に適正露出で撮影することができます。
ホットシュー付きのカメラにはフラッシュを直接取り付けできます。 ホットシューの付いていないカメラ(シンクロ端子付きのカメラ)には、シンクロ端子の発光信号をフラッシュに伝達するための変換グリップが必要です。
フラッシュをカメラまたは変換グリップに取り付ける方法については、33 ページをお読みください。 ホットシューまたはシンクロ端子の付いていないカメラには使用できません。)

1 フラッシュのモードボタンを押して、フラッシュのコントロールパネルの表示を「AUTO」にします。

2 GNo/ISO アップダウンボタンで、デジタルカメラの CCD 感度(ISO 感度)を設定します。

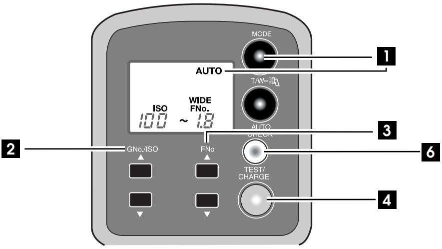
3 FNo アップダウンボタンでレンズの F ナンバーを設定します。

4 チャージランプが点灯していることを確認します。
チャージランプが点灯していない場合は、 充電が完了していません。

5 シャッターレリーズボタンを押します。

6 発光の確認をします。
オートチェックランプの点滅（シャッターレリーズボタンを押した後、約 5 秒間）により適正発光が確認できます。

メモ
- GNO/ISO アップダウンボタンで 1/4EV ずつ露出補正を設定することができます。
- テストボタンを押して、必要光量を発光するとオートチェックランプが点滅し、自動的に光量をチェックすることができます。
- 通信不可能なデジタルカメラに接続した場合、フラッシュのパワーセーブ機能は働きません。 電池の消耗を防ぐためにも、 撮影終了後はパワースイッチを OFF にしてください。

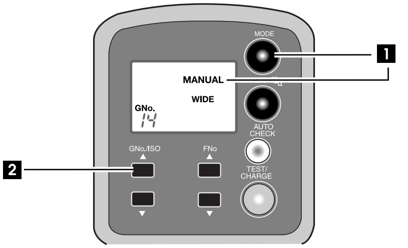


マニュアルモードで撮影する

フラッシュの発光量を設定してフラッシュ撮影します。

1 フラッシュのモードボタンを押して、フラッシュのコントロールパネルの表示を「MANUAL」にします。

2 GNo/ISO アップダウンボタンを押して、発光量を設定します。
1 回押すごとに、1/4EV ずつ設定できます。



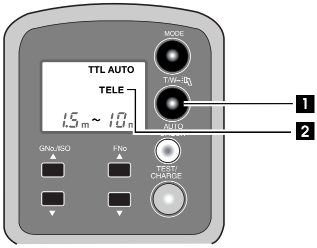
J 照射角の手動切り換え

照射角の切り換えを手動でおこなうことができます。
WIDE:上下 58°左右 70°(28mm レンズの画角に対応)*
TELE:上下 28°左右 34°(80mm レンズの画角に対応)*
＊35mm フィルムカメラ換算

1 フラッシュの T/W 切換ボタンを押します。

2 フラッシュのコントロールパネルに選択した照射角(「WIDE」または「TELE」)が表示されていることを確認します。

メモ
・レンズが広角（WIDE）側のときに、照射角を望遠（TELE）側にセットすると、画面周辺を暗くすることができます。



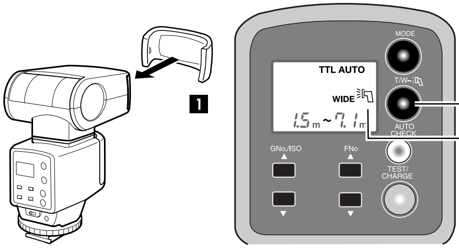
J ワイドパネルを使う

フラッシュにワイドパネルを装着して撮影します。
ワイドパネルを使うと、21mm レンズまでカバーすることができます。
照射角度：上下 70°、左右 86°（35mm フィルムカメラ換算）

1 フラッシュにワイドパネルを装着します。

2 T/W 切換ボタンを 2 秒以上押します。

3 フラッシュのコントロールパネルに［ ］が表示されていることを確認ます。
［ ］が表示された状態で、T/W 切換ボタンを押すと、ワイドパネルは解除されます。



J マニュアルモード時の撮影距離(m)と絞り値

(単位：m)

CCD感度	W / T	G No.	絞り値 / Fナンバー							
			1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
100	WIDE PANEL*	18	13	9	6.4	4.5	3.2	2.3	1.6	—
		9	6.4	4.5	3.2	2.3	1.6	—	—	—
	WIDE	26	18	13	9.3	6.5	4.6	3.3	2.4	1.6
		13	9.3	6.5	4.6	3.3	2.4	1.6	—	—
	TELE	40	28	20	14	10	7.1	5	3.6	2.5
		20	14	10	7.1	5	3.6	2.5	1.8	—
200	WIDE PANEL*	18	18	13	9.0	6.3	4.5	3.2	2.3	1.6
		9	9.0	6.3	4.5	3.2	2.3	1.6	—	—
	WIDE	26	26	18	13	9.3	6.5	4.6	3.3	2.4
		13	13	9.3	6.5	4.6	3.3	2.4	1.6	—
	TELE	40	40	28	20	14	10	7.1	5	3.6
		20	20	14	10	7.1	5	3.6	2.5	1.8

$$\text{絞り値} = GN \times \sqrt{\frac{\text{CCD感度}}{100}} \div \text{撮影距離（m）}$$

*付属のワイドパネル装着時

J 使用可能なCCD感度と絞り値の組み合わせ

		絞り値							
		1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
CCD感度	25	○	○	○	○	○	○	×	×
	50	○	○	○	○	○	○	○	×
	100	○	○	○	○	○	○	○	○
	200	×	○	○	○	○	○	○	○
	400	×	×	○	○	○	○	○	○
	800	×	×	×	○	○	○	○	○

○： 適正露出　　×： 不適性露出

上記の絞り値以外ではご使用にならないでください。

J Q&A

Q 他のフラッシュと組み合わせて、多灯撮影はできますか?
A 多灯撮影はできません。

Q テスト発光によるオートチェックはどんな時に有効ですか。
A バウンズ撮影時およびコンバータ使用時には事前にTEST ボタンを押すことで、オートチェックランプによる適正発光の確認ができます。(AUTO のみ)

Q チャージランプが点灯しません。
A 古くなった電池では充電に時間がかかり、充電完了前にパワーセーブ機能が働くためです。新品の電池と交換してください。なお、交換はパワースイッチをOFFにしてからおこなってください。

Q 内蔵フラッシュと組み合わせて同時発光させるとどうなりますか。
A 両方が同時に発光し、その光量で適正露出が決定されます(カメラの撮影モードがPまたはAの時)。
バウンズ撮影の時は内蔵フラッシュをキャッチライトとしても使用できます。

Q 続けて発光させたら、フラッシュが熱くなったのですが。
A チャージランプが点灯直後の連続発光を繰り返すと、電池が発熱します。このような場合は電池が冷えるまで間隔をおいて使用してください。

Q オリンパスLシリーズの35mmフィルムカメラでは使用できますか。
A ご使用いただけません。

Q カメラに装着できません。
A ロックピンが出ているとカメラに装着できません。その場合ロックリングを「←LOCK」と反対方向に止まるまで回してロックピンを引っ込めてからカメラに装着してください。(33 ページ参照)

Q モードボタンを押しても制御モードが切り替わらない。
A 通信可能なカメラに接続すると、フラッシュの制御モードがカメラ側からしか選択できない機種があります。カメラ側からフラッシュの制御モードを選択してください。

Q フラッシュ撮影時、カメラのホワイトバランスはどのようにしたら良いでしょうか。
A オートモードでのご使用をおすすめします。マニュアルホワイトバランスを使用する時は、6500Kに色温度を設定してください。なお、フラッシュ撮影条件によって色温度は変化します。

J 主な仕様

形式	デジタルスチルカメラ用外部フラッシュ
ガイドナンバー	自動切換　TELE: 40 , WIDE: 26 ワイドパネル使用: 18
照射角度	自動切換 WIDE: 上下 58 ° , 左右 70 ° (28mm レンズの画角をカバー)* TELE: 上下 28 ° , 左右 34 ° (80mm レンズの画角をカバー)* ワイドパネル使用時: 上下 70 ° , 左右 86 ° (21mm レンズの画角をカバー)* *35mm フィルムカメラ換算
発光時間	約 1/20000 秒〜 1/500 秒(発光量により変わる)
発光回数 (フル発光時)	約 100 回(単三アルカリマンガン電池使用時) 約 80 回(ニッケル水素電池、ニッカド電池使用時) (撮影条件により変わる)
充電時間 (フル発光してからチャージランプ点灯まで)	約 10 秒(単三アルカリマンガン電池使用時) 約 8 秒(ニッケル水素電池、ニッカド電池使用時)
発光モード	TTL AUTO、R-TTL AUTO、AUTO、MANUAL
バウンズ角度	上側：0 〜 90 °　左側：0 〜 90 °　右側：0 〜 180 °
オートパワーオフ	通信可能なカメラのオートパワーオフに連動
AF イルミネーター	通信可能なカメラとの組合せ時のみ低輝度で自動照射 有効距離の目安（カメラの機種によって異なります） 近距離側　約 1.5m から 遠距離側　3 〜 7m まで
電源	1.5V 単三アルカリ電池 4 本（ニッカド電池、ニッケル水素電池使用可能）
大きさ	高さ 132mm ×幅 77mm ×奥行き 116.5mm（突起部含まず）
質量	350g（電池別）
使用環境	温度 0 〜 40℃ 湿度 80% 以下(結露しないこと)

OLYMPUS®

OLYMPUS OPTICAL CO., LTD.

San-Ei Building, 22-2, Nishi Shinjuku 1-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan. Tel. 03-3340-2026

OLYMPUS AMERICA INC.

Two Corporate Center Drive, Melville, NY 11747-3157, U.S.A. Tel. 516-844-5000

OLYMPUS OPTICAL CO. (EUROPA) GMBH.

(Premises/Goods delivery) Wendenstraße 14-16, 20097 Hamburg, Germany. Tel. 040-237730

(Letters) Postfach 10 49 08, 20034 Hamburg, Germany.

OLYMPUS OPTICAL CO. (U.K.) LTD.

2-8 Honduras Street, London EC1Y 0TX, United Kingdom, Tel 0171-253-2772

CE

- "CE" mark indicates that this product complies with the European requirements for safety, health, environment and customer protection.
- La marque "CE" indique ce produit est conforme avec les exigences européennes en matière de sécurité, santé, environnement et protection du consommateur.
- Das CE-Zeichen bestätigt, daß dieses Produkt mit den europäischen Bestimmungen für Sicherheit, Gesundheit, Umweltschutz und Personenschutz übereinstimmt.

VT0453